

## MDE マニフェスト—『オブジェクトレポート』復刊にあたって

### 工学的問題解決のためのテクニカルインテリジェンスの提供を目指して

経営とは多種多様なシステムを対象にしつつ、価値を創造する活動といえます。組織はシステムであり、製品やサービス、ビジネス、そして社会もシステムです。作り出した価値によって経営は評価されますが、21世紀に入り、求められる「価値」は非常に複雑になってきました。流れる時間の中で、複数の目的と評価軸を持つ複雑なシステムの最適解を、どうやって見つけるのか—もはや20世紀の発想で解くことは困難になりつつあります。環境変化は速く、事業リスクはますます巨大化しつつあります。

優れたシステムあるいは有機体を創造し、そのシステムが優れた機能を発揮して優れた成果を生み出すための意思決定を行うのが経営といえます。複雑な価値の調整を必須とする経営は、明確で論理的なプロセスを経て行われるべきものであり、科学的論理性を可能な限り導入しなければ、普遍的な進歩は期待できません。<sup>(1)</sup>その意味で経営にはシステム工学的なプロセスが不可欠といえます。ビジョンから事業を設計し、検証、実現、評価を経て、フィードバックに至るサイクルをいかに確立するかが、経営、業務、生産、あるいは行政のすべてのリーダーに問われています。

計算処理から出発したITは、多様な業務支援を実現し、ネットワークを活用して業務プロセスの部分的最適化を支援するものへと進化してきました。しかし21世紀の経営を支えるには、決定的に不十分です。そればかりか、システムの複雑化・巨大化により、IT自体が経営のリスク要因になりつつあります。ITにいま求められているのは、それ自身を可視化すると同時に、経営や業務、生産のすべてのシステムを可視化して連携させ、プロセスとして制御可能にすることにより、複雑なシステムの多目的の最適解探索を支援するものへと飛躍することです。

21世紀に入り、多種多様、複雑なシステムの部分と全体をモデルとして表現し、それにより様々なステークホルダー

に必要なレベルの可視化と管理手段を提供すると同時に、別のシステムへの自動・半自動の変換を実現するモデル駆動アプローチが急速に台頭してきました。経営とITシステムを連携させるSOA/BPMや、組込みシステム開発とライフサイクル管理(PLM)を連携させる新世代のシステム工学の背景にあって、モデル駆動エンジニアリング(MDE)が意識的に追求されています。それは最適解を求める21世紀の経営課題に正面から応えるアプローチと考えられます。

『オブジェクトレポート』は、以上のような問題意識に立ち、MDEを中心的なテーマとしながら多様なITとマネジメント・サイクルに必要な問題解析、モデル化、シミュレーション、検証、評価などのプロセスをリンクさせつつ、ビジネスプロセスと製品ライフサイクルの最適化に取り組む最新技術の動向をレポートしていきます。さらに、世界の情報とリンクするWebの可能性を追求し、情報の意味的な構造化と可視化により、読者(ユーザー)を支援していくことを目指しています。

旧『オブジェクトレポート』は1992年、GUIから言語、ミドルウェア、分析/設計へと拡大しつつあったオブジェクト指向技術の動向を紹介する目的で創刊され、2002年まで発行されました。ITもオブジェクトも、もはや特別な存在でなく、ユーザーの問題解決の不可欠な要素として考えられるものとなりました。新『オブジェクトレポート』は、モデル駆動エンジニアリングの多分野での実践を支援する目的で復刊します。Webの登場により、情報が分野の枠を越えて爆発的に増大している中、問題解決(改善)に役立てられるインテリジェンスが切望されています。本誌は、IT産業の枠を越えて浸透しつつある情報技術に関するメタ情報を、問題解決のために総合的に役立てるテクニカルインテリジェンスとして提供することを目指すものです。

(1) 宮田 秀明著『理系の経営学(日経BP、2003年)参照  
(2) 図版: スペイン艦隊とトルコ艦隊が激突したレバン特海戦の図